

# Photo ふなばし



西安市の第八十五中学校の皆さんが、市立船橋高校に一日体験入学。昼食後のひととき、ニコリと記念撮影

船橋市・西安市友好学校調印  
21世紀に大きく咲かせよう友情の花

**MOVE** 大震災発生！市民の生命を守れ  
**震災対策 救命・救急訓練**

とくしゅう  
PART2

人にやさしく、まちにやさしい  
**緑豊かなまちづくり**

- 市政トピックス
- 街角ホットニュース
- サークル通信 ●ズームアップ
- WE ARE IN FUNABASHI
- まちなかの文化財／ふなばしの民話
- ペットインタビュー



草花を買い求める人でにぎわった“グリーン・ミニ・バザール”

vol. **67**

広報ふなばし写真版

MOVE

# 大震災発生！市民の生命を守れ 震災対策救命・救急訓練

死者約5,500人、負傷者約3万7,000人という甚大な被害を出した阪神・淡路大震災。

これを教訓として、船橋市では全国に先駆けて、様々なアイデアを盛り込んだ震災対策に取り組んでいます。

その一つとして、5月28日、運動公園や医療センターなどを訓練会場に、震災対策救命・救急訓練を実施しました。

この訓練は、千葉県北部を震源とする直下型地震の発生を想定したもので、人命を最優先に、関係機関が連携して傷病者や医薬品の搬送、情報収集などを行うというものです。

市や消防局、医療センターのほか、陸上自衛隊第一空挺団、船橋警察署、船橋市医師会、船橋市消防団が参加。自衛隊ヘリコプターによる傷病者の搬送、市医師会などによる応急救護所の設置と重傷病者の選別、救急車による重傷病者の搬送、医療機関・避難所への医薬品の搬送、警察による緊急輸送路の確保、ヘリコプター・ミニバイク隊による情報の収集など、今までにない、より実践的な訓練が展開されました。



災害対策本部が設置され、本部長の大橋和夫市長に、第一空挺団から被害状況が報告されました



各地域の医療機関にも被害が発生し、広域避難所での医療機関自衛隊のヘリコプター出動を要請。運動公園のヘリポートまで

確保が困難となり、重傷病者を医療センターに収容するため重傷患者を搬送しました



傷病者の程度を選別して、応急救護所に収容。市医師会、医療センター



道路交通網が寸断された場合に、情報収集や医薬品の搬送などで威力を発揮するミニバイク隊



応急救護所の重傷病者を、ドクターカーで医療センターに搬送



市内の医療機関で、傷病者が収容しきれなくなった場合、自衛隊のヘリコプターを要請して、圏外の医療機関に傷病者を搬送します

# 船橋市・西安市友好学校調印

21世紀に大きく咲かせよう友情の花



調印式後に行われた歓迎集会では、西安市の子供たちが民族衣装に着替えて、中国の踊りを披露してくれました

調印式の会場となった市立船橋高校の正門で、市場小学校、船橋中学校、市立船橋高校の児童・生徒たちが、西安市の教育代表団と子供たちを“熱烈歓迎”しました



船橋市の児童・生徒が心を込めて合奏や合唱などを披露し、西安市の皆さんを歓迎しました



一日体験入学で、書道の授業に参加（市立船橋高校）



体験入学の日、みんなで“さくら さくら”を合唱。西安市の生徒の指導で、市船の生徒も踊りにチャレンジ



西安市教育代表団の皆さんが大橋和夫市長を表敬訪問し、掛け軸を贈呈しました



様々な交流を通して、友好を深めることを約束しました（船橋中学校と育才中学校）

5月10日、昨年11月に友好都市を締結した中国西安市から、才璋輝西安市副市長を団長とする12人の教育代表団と30人の子供たちが船橋にやってきました。船橋市と西安市の友情をさらに広げ、深めようと、両市の小・中・高校が友好学校を結ぶことになり、その調印のために来船したのである。

友好学校を締結したのは、市場小学校と大雁塔小学校、船橋中学校と育才中学校、市立船橋高校と第八十五中学校（中国の中学校は6年制）。

調印式の会場となった市立船橋高校の正門前では、船橋市側の3校の児童・生徒が出迎え、大橋和夫市長のエスコートで、西安市教育代表団と西安市の子供たちが入場しました。

調印は小学校、中学校、高校の順に行われ、両市の校長先生ががちり握手。祝辞に立った大橋市長は、「昨年の友好都市調印のときに、大雁塔小学校の子供たちの熱烈的な歓迎を受け、胸が熱くなったことを忘れられません。両市のかわいい子供たちの幸せのために、私たち大人は一層努力しなければならぬと思っています。今回の友好学校調印で、21世紀の主役である子供たちが交流することは、新しい歴史の1ページを作ることになります。両市・両国の友情が無限に続くことを祈っています」とあいさつ。才副市長も「教育面での交流は、両市の友好にとって大きな役割を果たします。お互いに勉強し、友情を深め、船橋市の皆さんもぜひ西安市に来てください」と話しました。

引き続き、歓迎集会が行われ、船橋市の子供たちが合唱や合奏、新体操、剣道を披露すると、これにこたえて、西安市の子供たちも民族衣装を身にまとい、舞踊を演じるなど、両市の文化交流となりました。

翌11日は、西安市の子供たちがそれぞれの友好学校に一日体験入学。

「一回生 二回熟」これは中国のことわざで、「初めて会ったときは、お互いのことを何も知らないが、2度目に会ったときは、お互いを理解し、古くからの友達になっている」という意味。

前日、調印式で出会った子供たちは、この言葉のとおり、もう古くからの友達のような様子。一緒に授業を受けたり、交流会を開くなど、言葉の壁を飛び越え、子供たちにとって忘れられないすばらしい一日になったことでしょう。

この後16日の帰国の日まで、西安市の子供たちは、ワンパク王国、海浜公園などの施設見学や、日本の伝統文化である生け花とお茶を体験するなど、あっといふ間の1週間を過ごしました。

船橋での最後の朝、友好学校を結んだ船橋市の子供たちが、宿泊先のホテルに駆け付けました。両市の子供たちは、名前や住所を交換したり、記念写真を撮ったり、また、プレゼントの交換をするなど笑顔で交流。しかし、いよいよお別れの時が訪れると、抱き合っただけ涙を流し、握った手をいつまでも離さず別れを惜しんでいました。たった1週間の交流は、大人が想像する以上のものを両市の子供たちに与えたのでしょう。

この心と心の交流が21世紀に大きく花開き、船橋市・西安市、そして日本と中国の友情が無限に広がるにちがいないと信じています。

船橋市と西安市の友好学校締結を記念して、各校で“ぼたん”の植樹式が行われました（市立船橋高校）





市民ギャラリーで、友好学校調印の記念交流作品展が開催され、西安市の子供たちのすばらしい作品が表彰されました



茶華道センターで、生け花やお茶を体験しました



いよいよお別れ。動き出したバスに向かって、いつまでも手を振っていました



西安の子供たちにもワンパク王国は大人気



さよならパーティーは、ばか面おどりで大いに盛り上がりました



市場小学校のパソコン教室では、画面に絵を描いたり、自分のデザインをプリントした紙で、鶴を折りました



大雁塔小学校の皆さんが「中日友好」と大きな文字を書き上げると、市場小学校の児童から盛大な拍手が送られました



市場小学校に体験入学。盛大な歓迎を受ける大雁塔小学校の子供たち



育才中学校の皆さんが民族衣装を着て中国の踊りを披露すると、船橋中学校の生徒から大きな拍手が送られました



言葉の壁をこえて笑顔で交流 (船橋中学校)



あっという間の一日体験入学でした。これからは、ずっと友達 (船橋中学校)

## 大雁塔小学校

## 育才中学校

## 第八十五中学校



### 1960年創立、蒔 藤 校長

世界的に有名な「大雁塔」のすぐ近くに位置する。すばらしい教育実績から国の表彰を数多く受け、陝西省からは「先進模範学校」の称号が与えられている。また、コンピュータや数学の全国大会でも好成績を収め、スポーツでも陝西省で総合1位を10数年継続している。(41学級、児童数 2,229人)



### 1937年創立、張 効 校長

革命戦争時代に創立された歴史と伝統を誇る。1994年末から全面的な改築が行われており、3年後には西安市で最も施設の整った中学校に生まれ変わる。また、全国アマチュア管弦楽大会13位となるなど、芸術教育の分野でも、陝西省を代表する学校となっている。(24学級、生徒数 960人)



### 1954年創立、尤 海 校長

中国の中学校は6年制で、中学校の高等部は日本の高等学校にあたる。「厳しく、実直、勤勉、団結」の伝統を守り、西安市の模範学校と評されている。様々な施設にも恵まれ、世界中学生数学オリンピックの準優勝選手やバスケットボール中国代表選手も在籍している。(33学級、高等部生徒数 1,800人)

# 人にやさしく、まちにやさしい 緑豊かなまちづくり



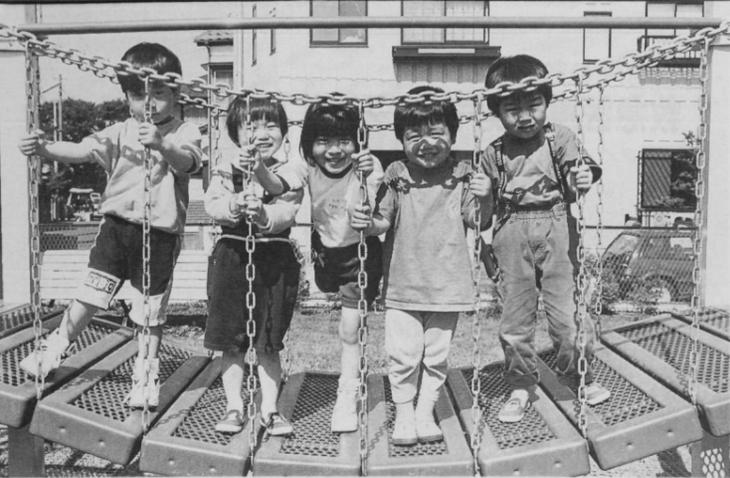
毎年、春と秋に天沼弁天池公園で開催されている「緑と花のジャンボ市」。たくさんの草花と市民の皆さんでにぎわいます



アンデルセン公園の建設現場。自然の樹木を伐採せず、移植して残す方法で工事が進められています



アンデルセン公園の完成予想図



この4月にオープンした東夏見公園。市内には183か所の都市公園があり、市民の皆さんの憩いの場となっています



「船橋の優秀生け垣20選」に選ばれた浅井さん宅のツゲ垣とヒバ垣（西習志野1）



黒松や桜、くすの木など、様々な樹木が保存されている東船橋緑地（山崎別荘）



ジョギングコースとしても最高です（八木が谷北市民の森）



旭町の斜面緑地



「船橋の名木10選」の一つ。道祖神社のイチョウ（東船橋1）

鳥のさえずりを聞きながら、木々を渡るさわやかな風をほほに感じて森の中を散策する。都心に近い場所でこんなことができたなら……。

市内には、丸山、藤原、大穴をはじめ、4月にオープンした八木が谷北市民の森など、9か所の市民の森があります。週末には、双眼鏡を片手にバード・ウォッチングを楽しむグループや、家族連れの皆さんの姿が見受けられます。

地球規模で緑地の保存が叫ばれている今日、急速に都市化が進む船橋市では、この課題に積極的に取り組んでいます。

昭和60年1月、(財)船橋市緑の基金を設立。貴重な緑を残すために緑地を買収したり、親子写生大会やウオーク・アンド・森林浴など、市民の皆さんに楽しみながら緑の大切さを知ってもらおうと、様々なイベントを実施して幅広い緑化事業を進めています。

このほか市では、樹林、樹木を保存するための助成やグリーンベルトの整備、新成沿線の大型フラワーラインの整備など、緑豊かなまちづくりの様々な施策も行っています。

さらに、平成4年9月に「福祉と緑の都市」を宣言。これは、緑豊かな環境の中で、高齢者や障害を持つ皆さんを大切に、子供たちが伸び伸びと成長できるまちづくりを進めようというものです。これを受けて、街路樹や生け垣づくりといった市民参加による「グリーン作戦」を展開するなど、様々な緑の施策を強化、拡大しました。また、この宣言の記念事業として、「アンデルセン公園」の建設に着手しています。これは、ワンパク王国に、アンデルセン童話の精神を生かした「メルヘンの丘」と子供たちの豊かな創造力を高める「子ども美術館」を増設するもので、平成8年の秋にオープンの予定です。この達成にあたっては、自然の樹木を伐採せず、移植して残していく方法で工事が進められています。

また、住宅地の中に残されている緑地を残すために、夏見・旭町・田喜野井・芝山地区などの斜面緑地を既に見取。今年度は新たに、「山崎別荘」(東船橋6)として親しまれた土地を、東船橋緑地として保存することになりました。

心やすらぎを与え、住みよい環境に欠かせない「緑」。私たちのまち船橋を、緑のあふれるまちにしていきたいですね。

## まちなかの文化財

浅間神社  
(西船1丁目)



浅間神社の本殿

国道十四号線から一の鳥居を見上げながら急な石段を登る。一の鳥居に「浅間神社」の石額が懸かっている。大正七年正月、青柳萬恒謹書とわずかに判読できるのは、私がその名、及び同氏が当社の境内地に長く住んでいたことを知っていたからである。青柳教授といえは大正十二年五月、早大軍研事件の中心人物となった国家主義者の学者で、軍部からは大いに頼りにされたが、学生、特に雄弁会などからは「青柳、恥を知れ」とやっつけられた話題の人物でもあった。

長く回顧している暇はない。一の鳥居から二の鳥居までは緩い上りの参道である。臥松を加えた桜並木が続く。

神殿に参拝。祭神は木花咲耶姫で古代伝説上の絶世の美女。但し花だから寿命は短い。長寿を選ぶなら醜女の姉、磐長姫。裏参道(かつては表参道だったらしい)の坂の途中、「小御嶽神社」をよく拝めばいい。でも両方がいいですね——社務所の東海林徳明さんご夫婦が顔を見合わせて笑う。奥さんがチャームでそういう感じがする。徳明氏は書家で楷書を得意とする。豊道春海に師事、春泉の号を持つ。目には「青葉」の美しい季節。いい人達に出会ったと思った。(文・大木 勲)



裏参道にそびえるけやきのご神木

### 24時間の救急体制 救急医療機関ネットワーク

4月1日から、船橋市医師会の全面的な協力により、新しく救急医療機関ネットワークが創設されました。これは、二次救急に対応できる13所の医療機関をネットワーク化して、医療の空白時間をなくしたものです。これによって、病院や医院の通常の診療時間や、市の夜間急病診療所の診療時間以外の時間帯（午後5時から9時、午前6時から9時）でも、急病が発生した場合に診療が受けられるようになりました。

また、この時間帯には、当番医の診療科目、住所、道順などをテレホンサービスで紹介しています。(☎0474-35-2727)



▲市医師会の協力で、24時間の救急体制が実現しました

区分	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
病院・医院																									
夜間急病診療所																									
救急医療機関ネットワーク																									

(平日の診療時間の例)

救急患者が、より迅速に適切な処置を受けることが可能になりました

### 県内で初めてスタート 視覚障害者自立生活支援事業

視覚障害者の皆さんの実情や希望に応じた訓練を行いました



船橋市では、病気や事故などで失明した中途視覚障害者の皆さんの自立や社会参加を支援する、視覚障害者自立生活支援事業を4月からスタートさせました。

これは、糖尿病などの病気や不慮の事故で失明した方に、失明宣告段階でのカウンセリングや訪問看護による歩行訓練、点字・音声ワープロの訓練などを無料で行うものです。市の自主事業としては県内初で、この制度の導入により、中途視覚障害者の皆さんの自立への道が大きく開かれました。

☎市障害福祉課 ☎0474-36-2340



▲模擬店は、食べ盛りのチビっ子たちに大人気



◀的当てにチャレンジ!

5月21日、運動公園で少年少女交歓大会が開催されました。今年で28回目を迎えたこの大会は、「ふなっ子元気だ、みんな友だち」をテーマに、子ども会やボーイスカウト、学童野球など市内13の青少年団体が集まり、楽しみながら交流を図ろうと開かれたものです。

会場には、磁石を使った魚釣りや、林の中を駆け回るブッシュマンワールド、様々な模擬店など、各団体の工夫を凝らしたコーナーが盛りだくさん。8,000人の子供たちの笑顔や歓声が一日中あふれていました。

### 西安市から講師を招いて 気功講習会を開催

5月18日から6月4日まで、武道センターと船橋アリーナの2会場で気功講習会が開催されました。気功による市民の皆さんの健康づくりを目的に始められ、毎年大好評のこの講習会。昨年11月に船橋市と友好都市を締結した中国・西安市との市民ぐるみの交流にも大きな役割を果たしています。7年目を迎えた今年の講習会も、西安市から気功師の解山岭先生を招いて、初心者と経験者のコースに分かれて行われました。個人のレベルに合わせて気軽に健康づくりができることから、年々愛好者も増え、今回の講習会には350人の皆さんが熱心に受講していました。



船橋アリーナでの講習会。解山岭先生の指導にも熱が入ります



武道センターでの講習会

### 女性センターで 写真入門講座を開催



▲中里先生から、暗室で焼き付けの指導を受ける受講者の皆さん

◀自分たちの作品を持ち寄って、楽しく勉強しました

昨年6月にオープンした女性センター（宮本2）で、写真入門講座が開かれました。これは、普段あまり撮らないモノクロ写真の撮影から、フィルム現像、引き伸ばしまで学んでもらおうというもの。講師にプロカメラマンの中里和人氏を迎え、屋外での撮影実習や暗室作業まで計6回の講座が開かれ、「モノクロ写真の魅力がわかりました」と、参加したたくさんの皆さんが楽しそうに取り組んでいました。

### 行政と民間が一体となって 防災会議を開会

船橋市では、災害対策基本法に基づいて、大橋和夫市長を会長とする「船橋市防災会議」を設置しています。4月27日、平成7年度の防災会議が開かれ、市及び県職員をはじめ、関係する民間の公共機関職員などの委員30人が集まりました。会議では、震災を中心とした防災対策について、細部にわたり熱のこもった協議が行われ、今後も行政と民間が協力して、地域防災計画の抜本的な見直しを積極的に進めていくことになりました。



阪神・淡路大震災を教訓に、行政と民間が一体となって震災対策に取り組みます



▲厳粛な雰囲気の中で「誓いの言葉」を唱和

この灯は、ナイチンゲールの博愛精神を表しています



5月10日、市立看護専門学校で、第4回生38人の戴帽式が行われました。これは入学後1年間で基礎を学び、いよいよ臨床実習に入る学生にナースキャップを授ける儀式です。一人ずつナースキャップを授かった学生の皆さんは、ナイチンゲールの像からキャンドルの灯を受け取り、厳かな雰囲気の中、全員で「誓いの言葉」を唱和。「看護の心」を深く胸に刻み込んでいました。

ナイチンゲールの看護の心を受け継ぐ  
市立看護専門学校で戴帽式



安全で住みよいまちづくりのためにがんばります

4月14日、船橋市消防局で消防団員118人の辞令交付式が行われました。このうち13人は女性。消防団活動の活性化と、女性の持つソフトな感性を地域防災に役立てるため、初めて女性消防団員を採用したものです。これから町会・自治会の消防訓練などを通して、様々な地域防災活動に取り組んでいきます。

地域防災に新たな風  
女性消防団員が誕生

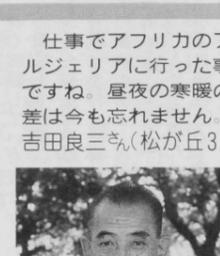


伊豆へ旅行したり、おばあちゃんの家へ行ったりしました。飯田沙緒里ちゃん(高根台新山育実ちゃん 第二小)

新婚旅行でヨーロッパへ行った事です。野村めぐみちゃん(習志野台1) 尚也くん(1歳2か月)



中学時代に部活の合宿で、押し入れに寝た事かな。森田あかねさん(飯山満町3)



仕事でアフリカのアルジェリアに行った事です。昼夜の寒暖の差は今も忘れません。吉田良三さん(松が丘3)



思い出深いのは、大学時代ですね。森田早千子さん(中野木1) 智成くん(1歳)

市民ひとことインタビュー  
大切な思い出は?

町会・自治会



タイヤの障害物に皆さん悪戦苦闘

ホール・イン・ワンに大喜び  
第6回二和地区グラウンドゴルフ大会

5月14日、二和地区体育指導委員会の主催で、第6回二和地区グラウンドゴルフ大会が行われ、この地区の町会・自治会から19チームが参加しました。前日までの雨で、ボールが思うように転がらず、悪戦苦闘。それでもホール・イン・ワンが出ると思わずガッツポーズで大喜びする場面も見られました。熱戦の末、団体の部は、二和13班の皆さんが優勝しました。



スティックを持つ手にも思わず力が入ります



苗をしっかりときれいに植えるのは大変。農作業の苦勞を学びました

農業委員は田植え機に挑戦

きれいな海老川を取り戻そう  
芝山高校の生徒が海老川沿いを清掃

5月6日、県立芝山高校JRC(青少年赤十字)委員会に所属するサークルの生徒の皆さんが、海老川ジョギングロードを清掃しました。これは、地域に密着したボランティア活動を行っている生徒の皆さんが、きれいな海老川を取り戻すために、自分たちができるところをしようと思ったもの。「吸いごらやガムの包み紙などの細かいゴミが多く、一人ひとりが気をつけることで街がきれいになると思いました」とモラルの大切さを話していました。



▲清掃を行った芝山高校の生徒のみなさん

◀みんなで船橋のまちをきれいにしましょう

ユニークな体験授業  
高根小学校の田植え学習

高根小学校のユニークな体験授業の一つとして毎年実施されている田植えが、今年も5月16日に行われました。

田植えに挑戦したのは、2年生から6年生までの450人。水を張った田んぼに横一列に並び、一斉に苗を植えていきます。初めは戸惑っていた子供たちも、先生やPTAの皆さんの指導で、しだいにコツをつかみ、きれいに苗が並んでいきました。秋には収穫祭が行われ、とれたてのお米でおもちを作るそうです。

車社会を安全に、いきいきと  
高齢者自転車大会

5月16日、宮本台北公園で高齢者自転車大会が開催されました。

これは、高齢者の自転車事故が増加しているため、自転車の正しい乗り方や交通ルールを再認識してもらおうと、船橋警察署の主催で行われたものです。当日は、宮本地区老人クラブの皆さん71人が参加、指導員のアドバイスを受けて模擬コースを走行。交通マナーをチェックするよい機会となりました。



正しい乗り方で安全運転を心掛けます



コースの説明を受ける参加者の皆さん

上海から選手を招いて  
第20回千葉県少年少女  
体操大会

4月23日、第20回千葉県少年少女体操競技選手権大会が船橋アリーナで行われました。

大会には、学校のクラブやスポーツクラブなどに所属する小学1年生から中学3年生までの選手187人が参加。鉄棒、床運動、跳馬、あん馬などの種目で技を競いあいました。

また、中国上海体育学院の揚雯剣選手と馬曉艳選手が招待されハイレベルの演技を披露。大会に華を添えました。



マットで華麗な演技を披露(床運動)



あん馬に挑戦する揚雯剣選手



「自分たちの交流は、自分たちの力で」を合言葉に友好を深めています



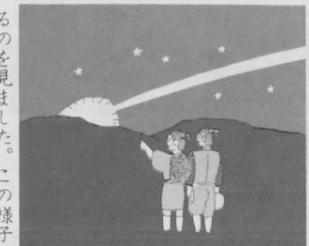
船橋アリーナで楽しい交流

4月13日から20日まで、ドイツ・トリアー市とコブレツ市のスポーツクラブの皆さんが船橋市を訪れました。これは、日独スポーツ少年団交流の一つとして、船橋市スポーツ少年団が1年おきに派遣や受け入れを行っているもので、今年で14回目。ヨハン・アウバート団長以下15人の一行は、船橋アリーナなどで、スポーツやレクリエーションを通して交流を深めました。

ふしびの民話

神明様(山)の故事

文・村上昭三



これは上山新田が開墾を始めて間もない頃の話だといふことです。新田場には何拾軒かが入植し、村の形も一応固まりました。その名主は、村の上区、この村の名主は、村の中区、中区、それに下区の主だった人を自宅に呼び、「皆の衆、村の形も漸く出来た。ついでには、村の安寧と各家々の繁栄のために、鎮守様を建てたいがどうじやろうか」と、周りを見渡しながらいいました。これを聞いた人達は、すぐに口をそろえて、「それはええお話じや。一日も早く建てて下せえ」と言つて賛成しました。そこで、お祀りする神様は、この村に縁の深い近くの村の神明様のご分霊をお願いすることにしました。そして、数日後の大安の日、掛け軸に描かれた「流れ星」の図

「不思議なこともあるものじや。これは神様のお告げに違いない。落ちた場所を探し出し、そこに神様のお社を建てようぞ」と、宣言するように重々しい口調で言いました。次の日の朝早く、大勢で探しました。とうとう、中区の一角で、長さ一尺五寸(約45cm)余の平べったい流れ星の石塊を見付けました。それから、この場所に神明様を安置しました。現在、上山町二丁目に鎮座します神明様のお社は、こうして決まったということです。また、この流れ星は、今もご本殿に疫病を治す霊石としてお祀りしているといふことです。

ズームアップ

アマチュア写真家

近藤典子さん(前貝塚町)

「ふるさと、船橋」を  
緑豊かなまちにしたい



写真展「野と山が装う時」の会場

4月19日から23日まで、市民ギャラリーで行われた写真展「野と山が装う時」。身近な野草や旅先で出会った草花を、女性らしい視点でとらえた作品が並び、その写真からは、自然の生き生きとした姿が伝わってくるようだ。

この個展を開いたのは、前貝塚町に住む近藤典子さん。「私は写真家じゃないんです。自然の草花が好きで、撮り続けていただけなんです」

よく山登りに出かけた近藤さんは、美しい高山植物に魅せられ、花の名前を調べようと写真撮り始めたのがきっかけで、30年以上も草花の写真撮り続けている。

17年前、仕事が都内から船橋に変わり、なかなか遠出する時間がなくなりましたが、船橋の野原を撮り始めた。「都内で

仕事をしていたことが、船橋のまちを見直すいい機会になりました」

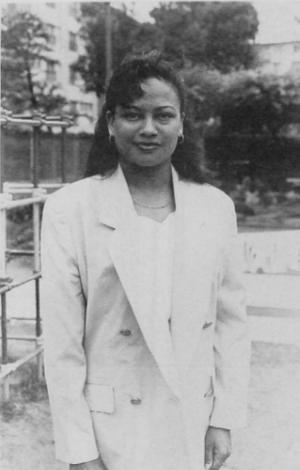
都市化が進み、まちの緑が減少している。「もっと緑を増やして、住みやすいまちになつてほしいですね」という近藤さん。以前に写真集「海老川散策 岸辺の花」も出版している。「私が写した海老川沿いの街中に生きる草花の写真を見て、みんなが緑に関心を持ってくれるとうれしいですね。特に、子供たちに興味を持ってもらいたいと思っています」

カメラはもう体の一部。カメラを通じて様々な友達や機会にめぐり会えた。「まだまだやりたい事がたくさんありますが、これからは、5年単位で何かを仕上げていきたいですね」と熱く語っていた。



今回は、四季の海老川の写真展を開きたいですね

アイ・ラブ・フナバシ



「駅にも近いし、買い物もららばーとがあるのでも便利です」。船橋の印象を語るゲートルートさんは、アフリカ・タンザニアのご出身です。

6年ほど前に留学生として来日。その後タンザニアで、青年海外協力隊員だったご主人と知り合い、結婚。4歳になるお嬢さんがいます。日本食は何でもOK。うなぎのかば焼きや天ぷらには目がないとか。ゲストが来ると、塩とスパイスの効いたお料理をふるまうそうです。趣味は旅行。「北海道や青森などに行きまし

た。福井では温泉にも入ったんですよ。沖縄の海はきれいで、もう一度行ってみたいですね」。曲に合わせてお嬢さんと踊ったり歌ったりすることがストレスの解消法で、都はるみの「好きになった人」が十八番。お茶や生け花などの日本文化にも興味があります。

また、「ゴミの問題にも関心があり、「日本人は、ゴミを出し過ぎですね。私は、買物のときにバスケットを持っていくなど、いろいろな工夫をしています」とゲートルートさん。将来の夢は小説家になることだ。

日本人はゴミを出し過ぎていますね

坂本ゲートルートさん (若松)



▲「短時間で作れるので、皆さんに喜ばれています」と沢田さん

▲美容室は一人でやっているの、仕上がりには差がなくたいへん好評です

◇今回のサークル通信のコーナーでは、子供たちが活動しているサークルを取材しました。

幼児から小学生までが汗を流しているラグビーには、きれいにステップを切って走る子供や、まだルールも分からずに一心にボールを追いかける子もいました。

みんなが口をそろえて「楽しい」と言い、中には1年間1日も休まずに通い続けている子供がいるという英会話サークル。

鏡に映る自分の姿を真剣に見つめて踊り続け、夢がふくらんだと話す子供たちのジャズダンス。

どの子供からも、一生懸命に取り組む意欲、ひたむきな思いがひしひしと伝わってきました。今のこの気持ちをいつまでも持ち続けてほしいと願っています。(木)



麻地 登志子さん (みやぎ台)

目的に合わせて洋服を決めています

黒いカットソーに、落ち着いたサーモンピンクのミニのサンドレス。足元は黒のクラシカルパンプスと、シンプルでもとても初々しい雰囲気。麻地さんは、今年の4月に、市内の私立保育園に就職したばかりのお嬢さんです。

「シンプルなファッションが好きで、出掛ける目的に合わせて洋服を選びます。アクセサリーも、就職のお祝いにといたというダイヤのブチネックレスと、右手の薬指にシルバーのリング。「イヤリングはあまり好きじゃないんです」

好きな色は白、黒、グレー。買物は船橋駅や津田沼駅周辺、ららぽーとなど。ショッピングに出掛けると、いろいろ目につくので悩んでしまうとか。

普段も、動きやすいミニスカート姿が多いという麻地さん。休日はお姉さんや友達と、ショッピングやドライブを楽しむそうです。

「まだ新人なので、勉強することがたくさんありますが、ピアノをもっと練習して仕事に生かし、趣味にもしていきたいと思っています」。「海が好きだから、沖縄や南の島にも旅行してみたいですね。もちろん時間と気持ちに余裕ができればですけど...」とさわやかにほほえみました。

マイ・ファッション



▲とても英語が好きになりました



▲教室はいつも笑顔が絶えません

M E C Jr  
松が丘公民館

子供たちが、もっと英語に親しめるようにと始まったこの英会話サークル。小学3年生から6年生までの7人が、毎週水曜日の夕方に、楽しく英語を学んでいます。「日本人が日本語を覚えるように英語を覚えてもらおうと、会話を中心に教えています」と加藤先生。英語を話すことで、いろいろな国の人々とコミュニケーションがとれるという楽しみを知ってもらうために、年2、3回、外国人を特別講師にお招きしているそうです。現在、英会話に興味のある仲間を募集しています。一日体験してみませんか。(連絡先: 齊藤俊子 ☎67-0154)

サークル通信



ジャズダンスジュニア  
勤労市民センター

最新のアップテンポなリズムが鳴り響き、子供たちが躍動感あふれるステップを踏んでいます。これは、市内でも数少ない子供たちのためのジャズダンスサークル。メンバーは小学3年生から中学3年生までの女の子18人。毎週水曜日の午後5時から6時半まで、元気一杯に汗を流しています。「ダンスを通して、一人ひとりが輝いてくれたらうれしいですね」という土井先生は、厳しい中にも優しさのこもった指導で、子供たちに人気があります。サークルに入って「積極的になった」「一生懸命やることの楽しさを知った」と子供たちも大喜び。興味のある方はぜひ参加してください。(連絡先: 青木絹子 ☎24-8098)



▲おそろいのGジャンで息もピッタリ

かっこよく踊れたときは最高です▶

F R C  
習志野自衛隊ラグビー場



▲親子でいい汗を流しています



▲鮮やかなボールさばきは大人顔負け

「親子が同じグラウンドで、ラグビーに汗を流せるのはとてもいいですね」と皆さん。平成元年の親子ラグビー教室をきっかけに発足し、現在メンバーは160人。その内、幼児から小学生までのジュニアチームは37人です。練習は毎週日曜日。年代に合わせて、大人は2クラス、子供は3クラスに分かれてトレーニングしています。主に前半は基礎、後半にゲームというメニュー。「勝敗よりも、ラグビーを通じた親子のつながりや、家族ぐるみのコミュニケーションを大切にしています」と指導者の宇都さん。興味のある方は気軽に来て、見て、体験してみませんか。(連絡先: 染原由美子 ☎69-4415)

お店

ワンワン美容室&手づくり手芸店  
「おしやれ」  
湊町2-12-16  
☎0474(31)8055

市役所美術コーナーで写真展  
「ふ・り・か・え・っ・て」

福祉行事などを写真に記録する「船橋写真ボランティアグループ」の白石ちとせさん(習志野台)が、5月22日から6月2日まで、市役所1階で個展を開きました。白石さんが身近な人や物を題材に、10年間撮り続けた中から特に印象深い作品32点を展示した写真展。市役所を訪れた皆さんが、足を止めて熱心に見入っていました。



「無理せず、身近なものを撮り続けます」と白石さん

あとがき

◇今回のサークル通信のコーナーでは、子供たちが活動しているサークルを取材しました。

幼児から小学生までが汗を流しているラグビーには、きれいにステップを切って走る子供や、まだルールも分からずに一心にボールを追いかける子もいました。

みんなが口をそろえて「楽しい」と言い、中には1年間1日も休まずに通い続けている子供がいるという英会話サークル。

鏡に映る自分の姿を真剣に見つめて踊り続け、夢がふくらんだと話す子供たちのジャズダンス。

どの子供からも、一生懸命に取り組む意欲、ひたむきな思いがひしひしと伝わってきました。今のこの気持ちをいつまでも持ち続けてほしいと願っています。(木)



私、うれしいとジャンプするくせがあって、ついご主人の服を汚しちゃうの

私の名前はクッキー。別にクッキーが好きだからって訳じゃなくて、私の甘い雰囲気を見て名付けてくれたんです。ミニコミ誌を通して今のご主人の所に来たのよ。生まれたての時は、パンダみたいにかわいって評判だったみたい。もう3年ほどお世話になっているけど、初めごろはチャボ君とよく遊んだわ。亡くなってしまったと寂しいわね。ところで私の食事は決まって「たまごはん」。ごはんに生玉子をかけたもの、これが最高。一粒も残さないわよ。カステラも好きだけど、ドッグフードはちょっと苦手なの。毎朝、家のシャッターを開ける音で起きてご主人と近くの公園を散歩。夜はシャッターの閉まる音で眠る規則正しい生活をしているので、病気一つしないのが自慢なんです。これからも元気であることがご主人孝行だと思ってがんばるわ。

なまえ  
クッキー (メス)  
オーナー  
入田英子さん (東船橋)

ペットインタビュー



起震車で震度7の揺れを体験するなど、2,800人の皆さんがちびっこ防災フェアに参加しました



初期消火訓練の体験

## 子供を対象に防災啓発 ちびっこ防災フェア

5月5日(こどもの日)、ワンパク王国でちびっこ防災フェアが行われました。これは、未来を担う子供たちに、防災についてもっと関心を持ち、知識を身に付けてもらおうというものです。

朝方からの雨も上がり、豊かな緑の中で思い切り遊ぼうと、ワンパク王国にたくさんの家族連れが来場。入口ゲート付近に設けられた防災コーナーでは、起震車で震度7の揺れを体験したり、はしご車に乗ったり、また、煙中避難訓練や消火器を使った初期消火訓練などに、子供たちが一生懸命チャレンジしていました。

## アンデルセン・グリーン&フラワー'95 こいのぼりまつり



家族連れで大にぎわいのワンパク王国

4月29日から5月7日まで、ワンパク王国で「こいのぼりまつり」が開催されました。5月5日のこどもの日にちなんで、市民の皆さんから集められた約200匹の鯉のぼりが王国の空を泳ぎ、チビっ子たちは様々なイベントに参加してワンパクぶりを発揮していました。



一輪車レースやタイヤ転がしレースなどイベントが盛りだくさん

スポーツで健康ふなばし  
こんにちには...